

事例報告書

【ローテートする初期研修医への教育で医学教育を学んだ事例】

提出 No. _____

大分類	B) 教育	中分類	10. 後輩・後進の育成
主たる病院総合診療医像	8. 次世代の病院総合診療医を育成する心に溢れ、俯瞰的な視野で卒前・卒後教育を実践できる		
実施期間：20XX年XX月XX日～20XX年XX月XX日			

【この事例を選定した理由】

メンターとして初期研修医（以下、研修医）への教育を行う必要性が生じた。診断推論力を高めることを目標に、鑑別疾患を考える力をつけるため研修医に初診患者の予診をとりプレゼンテーションを行ってもらい、5 micro skills を用いて議論した。結果として診断推論力の向上を得て研修医からの満足感も得られ、他の教育手法も織り交ぜて更なる改善を図った経験をしたため報告する。

【事例の記述と考察】

XX 病院総合診療科では、内科または自由選択期間中の 1 年目または 2 年目研修医を対象に、1-2 か月を 1 クールとして研修を受け入れている。研修医 1 名につき専攻医 1 名がメンターとなり、初診外来にて研修医が予診を行い、専攻医にプレゼンテーションし、議論する 1 対 1 教育を実践している。専攻医研修初日から研修医への教育を行っていくことになった。しかしすぐに困難に直面した。自身のこれまでの研修歴の中で、体系立った教育を受けた経験がなかったため指導法がわからなかったのである。これは自分の初期研修先が「習うより慣れる」の方針で、研修開始当初より外来・病棟に出でできる範囲のことはまず行い、不明点は指導医やコメディカルに聞いたり、自ら調べたりして問題解決を行っていた環境であった影響が大きかった。取り急ぎ自分が初期研修時代にして欲しかったことを考え、研修医に初診患者の症候に沿った鑑別疾患を口頭で教え、関連する医学書のコピーを渡すことを始めた。当初はこの方針でうまくいっているように見えたが、問題に直面した。1 年目研修医 A が研修開始 1 か月経過時点で、病歴聴取やプレゼンテーションの面で成長した手ごたえが得られなかったのである。研修医のスキル向上のため、医学教育の勉強を始めた。まずはカリキュラム開発の 6 段階アプローチに沿って検討した（下表）。

① 問題の明確化と一般的ニーズ評価	鑑別疾患を挙げるができない
② 学習者のニーズ評価	診断推論力を高めたい
③ 一般目標と個別目標	一般目標：診断推論力を高める 個別目標：OPQRST に沿った問診 ²⁾ を 15 分間で行う。 鑑別疾患とその根拠を述べるができる
④ 教育方略	予診後のプレゼンテーション時に個別目標を確認
⑤ カリキュラムの実施	研修医が予診を行う事に関し予め患者から同意を得る
⑥ 評価とフィードバック	5 micro skills を用いる ³⁾ 。研修終了時に振り返りを行う

それまでの自分の教育法が spoon feeding となっていたことを反省し、教育方略として最初から鑑別疾患を教えることは避け、5 micro skills (Neher JO, et al. 1992) を用いて研修医の考えを引き出すこと

とした（下表）。

① Obtain a commitment	症例ごとに、最も考えられる疾患は何かを問う
② Probe reasoning	診断根拠を問う
③ Teach a principle or rule	症候に沿った鑑別疾患を教える
④ Reinforce what was done well	正しい鑑別疾患が出たこと、根拠のうち病態として合っているものを褒める
⑤ Correct what was done wrong	間違った鑑別疾患や、根拠のうち正しくないものは訂正し、次回の病歴聴取へつなげる

当初は冒頭で行き詰まることがほとんどであったが、徐々に研修医が上記①②を述べられるようになり、OPQRST に沿った網羅的な病歴聴取も行えるようになった。2 か月間の研修終了時には「初期研修の最初に基本的な考え方を身に付けられて良かった」と嬉しい言葉を聞くことができた。また 2 年目研修医 B のローテート時には、成人学習理論に基づいて検討を行った（下表）。

① 自己概念	研修に対する意欲はあるが、何を学んで良いかがわからない
② 過去の経験	自身が主体的に診療を行った経験はほとんどない
③ 学習のレディネス	内科ローテーションの一部として、内科を勉強したいと考えている
④ 学習の導入	症例を経験する中で生じた疑問点を解決していくという手法をまだ身に付けられていない
⑤ 学習の動機	将来の志望科は未定であり、具体的な目標はまだない

内科研修へのニーズは本人も自覚しており、漠然とではあるが学習のレディネスはあると考えられた。5 micro skills を実践することで、現在の自分に足りない点、勉強すべき点の自覚を促し、up to date 等のリソースの活用法を教えることで主に④、⑤の向上を図ることができた。

【総合考察（病院総合診療専門医の具体的な医師像を含む）】

自らの教育に関する無知を自覚したことを契機に、教育手法を学ぶことの重要性を実感し実践することができた。初めにカリキュラム開発の 6 段階アプローチに沿って検討することで、問題点とニーズを洗い出し、学習者に合った効果的な介入を行うことができた。また 5 micro skills を用いることで研修医の問題解決能力を養い、その都度フィードバックを行うことを繰り返すことで継続的な能力向上を図ることができたと考える。加えて成人学習理論を意識して介入することで、疑問点の解決手法を伝え本人の内発的動機付けを促すこともできた。今後は定性的評価のみならず、定量的な学習者評価・プログラム評価も行うことで研修の質の向上を図り、次世代の病院総合診療医育成に貢献したい。

記載者：現病院名 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 病院 氏名 XXXX
 教育責任者：病院名 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 病院 氏名 XXXX ㊞